

伊豆半島沖地震50年シンポ

教訓や備え住民ら確認

南伊豆

南伊豆町で30人が死亡し

た伊豆半島沖地震発生から50年の節目に当たり、静岡大と美しい伊豆創造センターは13日、防災に関するシンポジウムを町役場で開いた。同大の小山真人名誉教授ら3人が講演し、当時の被災状況を振り返った上で備えの重要性を説いた。

小山さんは被害の大きかった同町中木地区周辺の地滑りや倒壊した建物などの悲惨な状況を写真で紹介し、「教訓を後世に伝え、将来への備えを確認するべきだ」と強調した。同大防災総合センター長の北村晃

寿さんと同特任教授の岩田孝仁さんも登壇し、能登半島地震から得られる教訓や南海トラフ地震への対策に



発生50年を迎えた伊豆半島沖地震の教訓を学ぶ住民ら

＝南伊豆町役場

ついて説明した。

住民ら約100人が参加した。地震は1974年5月9日、石廊崎沖でマグニチュード(M)6・9の規模で発生した。